



サステナビリティ のための教育

CIES2019

サンフランシスコ・2019年4月14～18日

国連は、1960年代の「開発の10年」において、教育は経済成長の原動力であると提唱しました。しかし、過去50年にわたり、識字能力、技術訓練、公的な学校教育を通して、どのような開発がされてきたのかということが、緊急性をもって問われています。生産性の向上、工業化、近代化、消費の拡大を確約、もしくは実現するための教育には、長期的にどのような経費がかかるのか？誰がこの費用を負担するのか？最も大きな経費とは何なのか？また、最終的にこの地球にどのような結果をもたらすのか？このような疑問が、第63回比較国際教育学会年次総会の「サステナビリティのための教育」というテーマへと繋がりました。

私たちのこの2019年のテーマは、研究者、政府、企業、国際機関、草の根レベルの市民社会により、CIESと人間の進歩の再考を結びつけるものです。この人間の進歩についての再考は、国連加盟国により採択された持続可能な開発のための2030アジェンダにも反映されています。このアジェンダは、人間の幸福と生態系保全を同時に追求するための目標設定、及び平和的なパートナーシップを築くことにより効力を発揮します。今回のテーマを通し、教育とは公共財であり、また私的財であるものの、その影響力は世界的であるということに気が付くでしょう。事実、国連がサステナビリティの4つの柱とする、包括的な社会開発、包括的な経済開発、平和と安全、環境持続の可能性において、教育は不可欠なものです。私たちCIESは、個人としてまた集団として、これら4つの柱に多くの貢献ができると考えています。

今回のCIESは、1945年、戦争で引き裂かれた国民国家の代表がハーブスト・シアターに集まり、国連憲章に署名をしたサンフランシスコで開催されます。この歴史的な会合から生まれた国際機関は、政治的緊張、経済危機、戦争を耐え抜いてきました。それは一部に、アメリカ合衆国が、ポジティブな役割を果たし支援してきたからです。例えば、米国ユネスコ委員会は、自然環境を改善するために何ができるかを議論するため、1969年、サンフランシスコに集いました。その会合により、アース・デイは世界的に認知されることになりました。そして2019年、新しい証拠を検討し、持続可能な未来を創造するために、私たち、学者や教育者には何ができるのかを学ぶため、CIESはハーブスト・シアターに立ち戻ります。

今日、米国のリーダーシップと多国間主義への関与は後退しており、ワシントンは昔に比べて、持続可能性に必要な国際的規範とその取り組みにあまり積極的に関わっていません。しかし、カリフォルニアはこの取り組みへの積極的な参画を続けています。よって、サンフランシスコでのこの会合は、協調的な行動と教育の学識が、憎悪や暴力を阻止し、人権と尊厳を促進し、さらには私たちの地球の生存への確かな助けとなることを思い起こさせる機会となるでしょう。CIESの研究者、アナリスト、教師および実践者は、これらの取り組みにおいて役割を果たすことができ、また果たす義務があります。カリキュラムを分析すること、人口動向に対応すること、既存の枠組みを批評すること、また全ての人にとっての持続可能な地球の発展のための政策及び実践を提唱するためには、あらゆる手段が必要です。是非参加し、貢献してください。